

帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領
改定ニ關スル陸海軍共通記錄

1309

帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領
改定ニ關スル陸海軍共通記錄
目次

第一、改定顛末

第二、用語ノ解

第三、關係者氏名

第一 改定顛末

帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領ハ大正十二年ノ策定ニ係リ爾後ニ於ケル内外情勢ノ變化ニ鑑ミ之カ改定ヲ要スルモノアリ乃チ參謀本部、軍令部ノ間ニ議熟シ昭和十一年一月以來改定案ノ立案ニ著手シ昭和十一年六月三日之カ裁定ヲ經タリ其顛末以下ノ如シ

一、昭和十一年一月下旬參謀本部、軍令部ノ間ニ帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領改定案立案ニ關スル議成ル

二、同年二月上旬ヨリ四月上旬ニ亘ル間ニ於テ參謀本部部員岡本清福及軍令部部員中澤佑相會シテ協議スルコト十數回四月二日ニ至リ兩者ノ間ニ帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領案一案成ル

爾來概ネ四月末ニ亘ルノ間參謀本部軍令部内ニ於ケル夫々ノ檢討之ニ基ク兩者ノ協議並軍政當局トノ折衝ヲ行フ

三、同年四月二十五日帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領改定ニ關スル手續ニ就テ參謀本

部、軍令部ノ間ニ協議成立ス(別紙第一)

四、同年五月一日參謀本部、軍令部ノ間ニ

帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領案ニ

就キ内協議成立ス(別紙第二)

右ニ伴ヒ參謀本部、軍令部兩者共通記

録ニ掲記スヘキ事項ニ就キ協議成立ス(別紙第三)

五、同年五月一日軍令部總長(軍令部次長代行ス)ヨリ

海軍大臣ニ帝國國防方針案ヲ内示シ同

意ヲ得

同年五月二日參謀總長(參謀次長代行ス)ヨリ陸軍

大臣ニ帝國國防方針案ヲ内示シ同意ヲ得

六、同年五月二日軍令部總長ハ海軍大臣ニ又五月五日參謀總長ハ陸軍大臣ニ帝國國防方針案ヲ本協議ス

七、同年五月五日參謀本部、軍令部ノ間ニ帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領案ニ就キ本協議成立ス(別紙第四)

八、同年五月六日參謀總長(參謀本部第二部長代行ス)ヨリ教育總監ニ帝國國防方針案ヲ内示ス

九、同年五月八日陸軍大臣、海軍大臣ハ帶

同ノ上内閣總理大臣ニ對シ帝國國防方針案ヲ内示シ御下問アリタル場合奉答等ニ關シ豫メ連絡ス(別紙第五)

十、同年五月十一日午前參謀總長(參謀本部第一部長代理第二課長代行)

ヨリ元帥ニ帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領案ヲ内示ス(兩總長以外ノ元帥ハ梨本宮御一方ニシテ殿下ハ五月初旬以來御旅行中ニ處五月十日夕御歸京アラセラルモナリ)

十一、同年五月十一日午後參謀總長、軍令部總長帶同參内シテ帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領案ヲ上奏ス(別紙第六)

十二、同年五月十二日元帥府ニ帝國國防方針及
帝國軍ノ用兵綱領案ヲ御諮詢アラセル（侍從
武官）
長ヲ先任元帥閑院宮殿下ノ許ニ
差遣セラレ改定案ヲ御下附アラセラル

十三、同年五月十三日午前元帥宮中ニ參集シ帝
國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領案ヲ審
議ノ上奉答文ヲ決定シ引續キ先任元帥ヨリ
奉答ス（別紙
第七）

十四、同年五月十三日午後內閣總理大臣ニ帝國
國防方針案ヲ御下問アラセラレ又同別紙帝
國國防ニ要スル兵力ヲ內覽セシメラル（侍從武官長ヲ
偶々參内シア

リタル内閣總理大臣ノ許ニ差違
セラレ改定案ヲ御下附アラセラル

十五、同年五月二十九日内閣總理大臣參内奉答シ
且國防方針寫一本御下附ヲ乞フ旨侍從武
官長ヲ經テ言上ス

十六、同年六月三日參謀總長軍令部總長ヲ召
サレ帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱領
御裁可アリ且同時ニ御沙汰ヲ賜フ

參謀總長軍令部總長之ニ奉答ス
參謀總長軍令部總長ヨリ侍從武官長
ヲ經テ元帥及内閣總理大臣奉答寫御下

附ヲ乞フ旨言上ス(以上別紙
第八)

十七、同年六月三日内閣總理大臣ヲ召サレ帝國
國防方針御裁可ノ旨御沙汰ヲ賜フ同時
ニ侍從武官長ヲ經テ帝國國防方針寫
一本御下附アラセラル

十八、同年六月三日參謀總長ヨリ陸軍大臣
ニ軍令部總長ヨリ海軍大臣ニ夫々帝國
國防方針御裁可ノ旨通報ス

十九、同年六月四日參謀總長(參謀本部第一部長
代理第二課長代行ス)ヨ
リ元帥ニ帝國國防方針及帝國軍ノ用兵綱

領御裁可旨又教育總監三帝國國防方
針御裁可旨口頭通報ス

以上ハ帝國國防方針及帝國軍用兵綱領改定ニ
關スル顛末ノ概要ナリ昭和十一年一月改定案ノ立
案ニ著手シテヨリ同六月上旬裁定ヲ經ル迄五ヶ月
ノ日子ヲ費シタリ此間二月二十六日事件ノ勃發セ
ルアリ爲ニ二月下旬ヨリ三月中旬ニ亘ル約二十日間業
務ヲ中止スルノ已ムナキニ立至リシノミナラス内閣ノ
更迭竝陸軍側關係者一部ノ異動ヲ見タルモ遂ニ
當初ノ豫定タル五月上旬ヲ著シク超過スルコトナ
クシテ諸業務ヲ完了スルヲ得タリ

第二用語ノ解

一、帝國國防方針 帝國國防ニ要スル兵力ヲ含

ムモノトス

二、東洋

概ネ「スエズ」運河以東ヲ指スニ用フ

東亞

概ネ具加爾湖、新嘉坡ヲ連ヌル

線以東

暹羅、蘭印、地方ヲ含ム

ヲ指スニ用フ

極東

概ネ東亞ノ北半部ヲ指シ主トシ

テ露軍ニ對シテ用フ

西太平洋

概ネ東經百八十度以西ノ太平洋ヲ

指スニ用フ

對馬海峽

三、擊破

擊滅

四、攻略

占領

五、協力

協同

帝國本土ト朝鮮ト、間ノ海峽ヲ謂

フ

一般兵力及地上兵力ニ對シテ用フ

海上兵力及航空兵力ニ對シテ用フ

對要塞戰ヲ含ム場合ニ用フ

右ノ場合以外ニ於テ一般ニ用フ

陸海軍ノ作戰ニ主副アル場合ニ用

フ

(1) 陸海軍對等ノ立場ニテ作戰ス

ル場合ニ用フ

六、聯合國

(ロ) 陸海軍ノ作戰ニ主副アルモ他ニ
之ヲ明示セラレアル爲特主副
ノ關係ヲ表明スルノ要ナキ場
合三般的ニ用フ
滿洲國ヲ含マサルモノトス

第三 關係者氏名

一、陸軍側

參謀總長

元帥陸軍大將

載仁親王

參謀次長

陸軍中將

杉山 元

(三月十五日
轉職)

同

同

西尾壽造

(三月十五日
轉入)

參謀本部第一部長

陸軍少將

鈴木重康

(三月十五日
轉出)

同

同

桑木崇明

(三月十五日
轉入)

參謀本部第二課長

陸軍步兵大佐

石原莞爾

參謀本部第二課部員

陸軍砲兵中佐

岡本清福

陸軍大臣

陸軍大將伯爵

寺內壽一

教育總監代理

陸軍中將

中村孝太郎

二、海軍側

軍令部總長

元帥海軍大將

博恭王

軍令部次長

海軍中將

嶋田繁太郎

軍令部第一部長

海軍少將

近藤信竹

軍令部第一課長

海軍大佐

福留繁

軍令部第二課部員

海軍中佐

中澤佑

海軍大臣

海軍大將

永野修身

三、元帥府

元帥陸軍大將

載仁親王

四、政府側

元帥陸軍大將
元帥陸軍大將

博恭王
守正王

内閣總理大臣

廣田弘毅

外務大臣

有田八郎

大藏大臣

馬場鎧一

五、侍從武官府

侍從武官長

陸軍中將

宇佐美興屋

昭和十一年 月 日

參謀本部
軍令部

1332

別紙第一
帝國國防方針及帝國軍用兵綱領
改定ニ關スル手續

1333

別紙第二

帝國國防方針（兩第一部長認印）
帝國軍ノ用兵綱領（同 右）

別紙
第三
記

1337

記

一 帝國國防方針ニ於テ米國、露國ノ
順序ニ記載シアルハ其順序ヲ以テ
國防ノ目標トシテ、輕重ヲ示スモノ
ニアラス

尚米國、露國ニ對スル軍備ノ計畫
及實行ニ方リテハ時ノ情勢ニ應ジ
緩急ヲ考慮スヘキコト勿論ナリ
二 帝國軍、用兵綱領中米國ヲ敵トスル
場合ニ於ケル作戰ノ要領ハ我作戰行

動開始時ニ於テ米國艦隊ノ大部ハ
其本土西岸方面ニ在ル場合ニ應ス
ルモノニシテ爾他ノ場合ニ處スル作
戰要領ハ本要領ニ準シ策定セラル
ル如ク年度陸海軍作戰計畫ニ於テ
立案スルモノトス

三 帝國軍ノ用兵綱領中英國ヲ敵トスル
場合ニ於ケル陸海軍ノ作戰要領ハ
今後具體的研究ヲ遂ケタル上用兵
綱領ノ改訂方

允裁ヲ仰キ且年度陸海軍作戰計
畫中ニ記載スル如ク立案スルモノ
トス

昭和十一年五月一日

參謀本部
軍令部

別紙第四

帝國國防方針（兩總長署名）
帝國軍用兵綱領（同 右）

別紙第五

陸海軍大臣ヨリ内閣總理大臣ニ對シ
國防方針ニ關シ事前連絡ノ件

別紙第六
上奏書
口演奏上
御説明案

1347

別紙第七
元帥會議次第

1349

1350

別紙第八

御沙汰寫

奉答案

元帥奉答寫

内閣總理大臣奉答寫

